

国立国語研究所学術情報リポジトリ

上級日本語学習者は文章の文体をどのように把握するか

メタデータ	言語: ja 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2024-07-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小西, 円 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/0002000277

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.



上級日本語学習者は文章の文体をどのように把握するか

小西 円

東京学芸大学／国立国語研究所 共同研究員

要旨

本研究は、上級の日本語学習者が文章の文体をどのように把握するかを調査したケーススタディである。『BCCWJ 図書館サブコーパスの文体情報』（柏野 2015）にある専門度、客観度、硬度、くだけ度、語りかけ性度という5つの指標を用いて調査を行った。その結果、論文やレポートと似たテキストの文体把握はより容易で、エッセイのようなジャンルやスピーチを文字化したようなジャンルの文体把握がより難しいことがわかった。文体を表す指標については、特にくだけ度において、くだけ度が持つ様々な待遇的な側面を部分的にしか把握できない様子が観察された。適切な文体把握のために、くだけ度を細分化することと、音声言語と文字言語における丁寧体の使用・不使用がもたらす効果を整理して提示する必要性が示唆された。それらによって、話しことば／書きことばという用語を越えた文体記述の可能性が開かれると考えられる*。

キーワード：日本語教育、日本語学習者、文体、話しことば、書きことば

1. はじめに

日本語学習者がジャンルに応じた適切な文体を産出することは、簡単なことではない。適切な文体の産出のためには、語や表現のもつ文体的特徴を把握する必要があるが、辞書に記載される文体情報は十分とは言えない（前坊 2007）。日本語学習者の中でも大学等に進学する留学生にとっては、論文やレポートというジャンルに適した文体の産出が大きな課題であり、そのような教育支援に直結する研究として、実際の論文を分析して使用される文型や語彙を調査した村岡他（1997）、村岡（2001）、安藤（2002）や、類義表現のレポートや論文における使用可否を可視化して示した井上（2009）などがある。また、コーパスを用いてジャンル別に表現の出現傾向を把握し、結果として論文やレポートによく使われる表現の抽出を行う研究も多数見られる。たとえば、接続詞に関しては石黒他（2009）、高野・上村（2017）などがある。また、レポート・論文作成のための日本語教育の教科書も多い。

一方で、日本語学習者が実際に文体をどのように理解しているのかという研究は、それほど多くはない。前坊（2009）は、「少し」「ちょっと」や「若干」「多少」「やや」などの類義表現のレポートへの適切性を学習者がどのように把握しているかを調査したもので、「漢語の方が適切」「初級より後に学習した語の方が適切」「っ」や「ん」の音が入るものは話しことばのように理解していることを示した。また、高野（2011）は、中上級後半の学習者77名に対して、意図的に

* 本稿は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」（プロジェクトリーダー：小磯花絵）、JSPS 科研費（課題番号 18K12420）の研究成果の一部である。また、言語資源ワークショップ 2022 における小西（2023）の発表内容を発展させたものである。

レポートや論文にはふさわしくない表現を含めた読解教材からふさわしくない表現を抽出し、ふさわしい表現に直すという課題を実施した。その結果、「じゃなく」のような縮約形や「あんまり」のようなモーラの追加については認識度が高かったが、「どんな」を「どのような」に修正する箇所や、「さめてて」を「さめていて」に修正する箇所などは認識率が低いことを示している。

このように、留学生等が産出しなければならないジャンルという点から、レポートや論文を素材として学習者の文体把握を調査する研究は見られるが、学習者が目にする文章のジャンルはそれにとどまらないのではないだろうか。また、日本語学習者用の辞書の記述において、類義表現や語の文体を適切に表現するためには、どのような観点で文体を記述すればよいかということとともに、日本語学習者にとって文体把握のどのような点が困難なのかを把握する必要がある。

そのため、本稿では、ケーススタディを通して、日本語学習者が文章の文体をどのように把握しているかについて調査と考察を行う。

2. 問題の所在と本研究の目的

2.1 話しことばと書きことば

文体は、文章等の個性と文章等の類型の大きく2つに分けられるが、本稿では後者を対象とする。また、文体はおおむね「談話は、話し手や聞き手などの表現主体がだれであるかによって、あるいはその談話が生成される目的、用いられる場面、伝達の媒体などによって、異なる言語的特徴の偏りを持つ。これが文体である。」(日本語記述文法研究会(編)2009:193)と説明され、文体差を生み出す要因として、媒体、話し手(書き手)の属性、ジャンルなどがあるとされる(日本語記述文法研究会(編)2009:193)。そのため、文体差を記述するためにはこれらの観点を意識する必要があると言える。

媒体には音声と文字がある。音声言語は、即興的で不可逆的であり、助詞の省略や音の脱落などが見られる一方で、文字言語はより計画的であり、読み手が読み返すことも可能であり、助詞の省略や音の脱落も原則的には起こりにくい。また、このような媒体の特性を含む形で、音声言語を話しことば、文字言語を書きことばと呼ぶことも多い。しかし、音声で行われる発話にも、友人との雑談から、独話で行われる講義・講演などもあり、両者の特徴を話しことばという枠に収めることは難しい。このように、話しことばと書きことばという二項対立の用語には問題が多いことは、既に指摘されている。たとえば、石黒(2015)は書きことばの文体は「フォーマル」、話しことばの文体は「カジュアル」と考えられることが多いが、そこには「硬さ/軟らかさ」「あらたまり/くだけ」の2つの観点が入り込んでおり、分けて考える必要があることを指摘している。また、定延(2005)は音声で発せられることばにも、他人とのコミュニケーションに関わるものと、他人とのコミュニケーションに関わっていない儀式的なことばがあるとして、後者にファイラーが現れないと述べている。その他にも、話しことばと書きことばには「漢語/和語という語彙層と並行した漢文脈/和文脈の対立」と「敬語と連動した受け手待遇の有/無の対立」という軸が交わっていること(滝浦2014:76)や、聞き手・読み手が特定少数か不特定多数かという対立があること(日本語記述文法研究会(編)2009:194-195)も指摘されている。話しことばと書

きことばという用語は、日本語教育においても頻繁に用いられる用語であるが、文体を正しく把握・記述するためには、このような二項対立の用語で単純化して説明することは適切ではないと言える。

2.2 文体を表す方法

話しことばと書きことばという二項対立を越える方法で文体的な特徴を記述しようとするならば、石黒（2015）が述べた「硬さ／軟らかさ」「あらたまり／くだけ」のように、複数の観点から記述する必要がある。「あらたまり／くだけ」は待遇に関わるものとして、滝浦（2014: 76）が指摘する「敬語と連動した受け手待遇の有／無の対立」という軸とも関連する。滝浦（2014）は、待遇性を帯びた和文脈中心の音声言語と、待遇性を帯びない漢文脈中心の文字言語とを両極に、その間に様々な段階があることを示している。

このような文体的な指標をもつデータとして、『BCCWJ 図書館サブコーパスの文体情報』がある。次節ではこのデータについて紹介する。

2.3 「BCCWJ 図書館サブコーパスの文体情報」について

『BCCWJ 図書館サブコーパスの文体情報』（以下、「コーパス文体情報」と呼ぶ）は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ）の「コーパス」に収録されている書籍サンプルに対して、人手で文体情報を付与したデータである（柏野 2013, 2015）。付与されている文体情報は、(A) 対象読者に想定される読解レベル、(B) テキストの作成意図、(C) さまざまな文体情報の3種である。具体的には、(A) として専門度、(B) として客観度、(C) として硬度、くだけ度、語りかけ性度の5つの指標がある。それぞれの指標は表1のような段階があり、各書籍サンプルに各指標の数値が付与されている。2.2節で指摘した話しことばと書きことばをさらに詳しく分析するための「硬さ／軟らかさ」「あらたまり／くだけ」という指標が含まれていることに注目したい。

表1 「コーパス文体情報」の各指標

専門度	1 専門家向き, 2 やや専門的な一般向き, 3 一般向き, 4 中高生向き, 5 小学生・幼児向き
客観度	1 とても客観的, 2 どちらかといえば客観的, 3 どちらかといえば主観的, 4 とても主観的
硬度	1 とても硬い, 2 どちらかといえば硬い, 3 どちらかといえば軟らかい, 4 とても軟らかい
くだけ度	1 とてもくだけている, 2 どちらかといえばくだけている, 3 くだけていない
語りかけ性度	1 とても語りかけ性がある, 2 どちらかといえば語りかけ性がある, 3 特に語りかけ性はない

「コーパス文体情報」の文体研究における有用性は馬場（2018）によっても示されている¹。馬場（2018）はBCCWJの図書館サブコーパス内の語（語彙素）に対して「コーパス文体情報」の

¹「コーパス文体情報」の文体研究における有用性は、馬場（2018）以外にも、浅原他（2014）、浅原他（2015）、浅原・加藤（2015）などによって明らかにされている。また、柏野・中村（2014）では「コーパス文体情報」の利用に役立つ文体情報検索ツールについて述べられている。

5つの指標別の平均値を算出し、それらの平均値が語の文体差に関する内省判断と強い相関があることや、和語・漢語・外来語の特徴の違いが平均値の違いに現れていることなどを示した。そのため、「コーパス文体情報」のアノテーションデータは文体情報に関する一定の信頼性があると判断でき、本調査のデータとして使用する。

2.4 本稿のリサーチクエスト

本稿では、「コーパス文体情報」を用いて、日本語学習者が日本語の文章の文体をどのように把握しているかを調べるケーススタディを実施する。日本語母語話者の文体把握である「コーパス文体情報」のデータと日本語学習者の文体把握を比較することを通して、日本語学習者の文体把握の特徴や課題の一端を明らかにすることを目的とする。そのため、以下のリサーチクエスト1を設定する。また、複数の指標によって、話しことばと書きことばという二項対立を代替できるのかについても考えたい。そのためには、学習者が「コーパス」の文体指標をどのように把握しているかを理解する必要がある。そのため、以下のリサーチクエスト2を設定する。

リサーチクエスト1:

日本語学習者にとって文体把握が易しいテキスト、難しいテキストの違いは何か。

リサーチクエスト2:

日本語学習者にとって把握が難しい文体指標は何か。それはどうしてか。

3. 調査について

本節では、本稿で行う調査について説明する。

3.1 調査用テキスト

本調査では、「コーパス文体情報」の5指標を参考にして、さまざまな文体的特徴を持った以下の5つのサンプルをBCCWJから選出し、これを調査用テキストとした。5つのテキストのタイトルとそのテキストに付された5指標の詳細を表2に示す。各テキストは「jReadability」²によって難易度を調査し、調査協力者となる日本語学習者にとって難易度が高すぎないように考慮した。表2に示した難易度は、「jReadability」のサイトで判定されたものである。

テキストの具体的な文章の一部を表3に示す（以降、サンプルのタイトルは表2に掲載した略称で示す）。実際の調査では、表3の文章を含む500文字前後を使用した。また、調査時は中級以上の漢字語にはフリガナをつけた。

² 日本語の学習者と教師のためのWebシステム「jReadability」の中の「日本語文章難易度判定システム」を使用した。日本語の文章テキストを入力すると、その難易度を6段階で判定するシステムである（李2016）。<https://jreadability.net/>（2023年11月22日確認）

表2 調査用テキスト

ID	タイトル (略称)	「コーパス文体情報」の各指標	難易度
LBi4_00028	岩波講座現代の物理学 (物理)	1 専門家向き 1 とても客観的 1 とても硬い 3 くだけていない 3 特に語りかけ性はない	中級 後半
LBt1_00037	松岡修造のカッコいい大人になるための7つの約束 (約束)	4 中高生向き 4 とても主観的 4 とても軟らかい 1 とてもくくくくくくくく 1 とても語りかけ性がある	中級 前半
LBon_00004	キラキラ恋うらない (占い)	5 小学生・幼児向き 4 とても主観的 4 とても軟らかい 1 とてもくくくくくくくく 1 とても語りかけ性がある	中級 前半
LBf9_00067	男はオイ!女はハイ… (男女)	3 一般向き 4 とても主観的 4 とても軟らかい 1 とてもくくくくくくくく 2 どちらかといえば語りかけ性がある	中級 前半
LBd4_00005	新史・動物行動記 (動物)	3 一般向き 2 どちらかといえば客観的 2 どちらかといえば硬い 1 とてもくくくくくくくく 3 特に語りかけ性はない	上級 前半

表3 調査用テキストの文章 (一部)

物理	われわれは、なにゆえに、自由な Dirac 場が Fermi 統計をみだし、自由な Klein-Gordon 場が Bose 統計に従うかを見てきた。相対論的な自由場はこれ以外にもさまざまなスピンを記述するものが知られている。これらを逐一述べるのは本書の目的ではない。ただスピンと統計の関係として次の定理 (W.Pauli, 1940) はよく知られている。 * 証明法はいろいろ考えられるが、前節の方法の一般化としては、例えば文献 [8] を参照。
約束	僕はスポーツが大好きです。自分の頭、身体、そして心、持てる力のすべてをありったけぶつけることができるからです。 結果がはっきりと出るのもいいですね。記録や勝ち負けという形で、そのときの能力やそれまで積み重ねてきた毎日の努力が、具体的に表れてきます。「目標を立てる」→「努力する」→「(残念な)結果が出る」→「目標を立て直す」→「また努力する」→「(いい)結果が出る!」という流れが、スポーツをやっていると自然に身についてくるのです。 これは、将来スポーツと関係のない仕事に就いたとしても役立つことだと思うんです。だから、みんなにも、何かひとつはスポーツを経験してもらえたら、と思います。
占い	コインやトランプ…etc。さあ、今度はいろ～んなタイプのうらないで、恋のことさぐっちゃお。 1 絶対、モテモテ少女になりたあ～い!! 恋の五百円玉うらない ■うらない方 五百円玉を1個用意してね。そして、イラストのように、左手の人さし指のツメで五百円玉を立て右手の人さし指のツメで、チョンと五百円玉をはじいて回転させるの。クルクルと回転した五百円玉が止まったとき、どっちの面が上になっていたかを確認するのを忘れずにね。
男女	つい先日の話だ。 最近流行りの通信販売。例の新聞の日曜版の裏面などに、克明にズラリと商品が写真などで広告してあるやつ。あれをば何となく眺めているうちに、どうしても欲しくなった商品があった。 よし、こいつひとつついてやれとばかりすぐ電話にとびついた。 「ハイ、こちら一です」と出たのは、耳ざわりだけでわかるアルバイトギャルの声。 「商品番号をおっしゃって下さい」といわれて答える。 さらに「御住所と御名前、電話番号を郵便番号からどうぞ」ってんで、こいつにも儀儀に返事をする。が、その次がいけない。 「では生年月日とお年をどうぞ」 「え!」

動物	<p>5 動物たちの愛は血縁淘汰では解けない 血縁者でない仲間を多く助けたことこそ大切</p> <p>私が「警戒音を発して仲間を逃がす利他行動」を遺伝子レベルで考え、その犠牲になった個体の遺伝子が生きのこった兄弟の中に伝わるからいいのだという「血縁淘汰」の考え方にハテおかしいぞと思ったのは、すぐにいくつかの疑いが生まれたからである。</p> <p>だいいち、犠牲者の兄弟はそれで助かって、大へん結構だったが、多くの血縁者でない仲間たちはどう評価する？—彼らの方がはるかに多く助かっていることも多いだろうに。それは犠牲者の遺伝子とかかわりがないから、「派生的なもの」で、行動学的には無視するのか、考えなくていいのか、ソナバカナ、ということが一つ。</p>
----	---

各調査用テキストは、次のような文体的特徴を持っている。『物理』は「専門家向きで、客観的で、硬く、くだけておらず、語りかけ性がない」文体である。『約束』は「中高生向きで、主観的で、軟らかく、くだけており、語りかけ性がある」文体であり、『物理』とはおおよそ逆の文体的特徴をもっている。『約束』では丁寧体が用いられている。また、『占い』は『約束』と類似の傾向を持っているが、対象読者が『約束』より幼くなり、「小学生・幼児向きで、主観的で、軟らかく、くだけており、語りかけ性がある」文体である。『男女』は『約束』とほぼ同じ特徴を持ち、5つの指標のうち、対象読者と語りかけ性のみが異なっている。要因はこれだけとは限らないが、『男女』は使用されている語に漢語や難度の高い語が増えていることから対象読者の指標に影響し、また、文体が普通体であることが語りかけ性に影響していると考えられる。一方、『動物』は、「客観的で硬い」のに「くだけている」という点で、そのほかの4つのテキストと異なっている³。馬場（2018）は、専門度、客観度、硬度、くだけ度の4指標が相互に強い相関があることを明らかにしているが、その点から見ると『動物』はやや異質なテキストである。『動物』は他の4つのテキストより難易度がやや高めであるが、日本語学習者がこの種の文体をどのように把握するかを確認するために、調査対象とした。

3.2 調査協力者

調査協力者は表4に示す12名で、2022年6月の調査時点で日本の大学または大学院に在籍している留学生である。日本語の習熟度を把握するために、SPOT90（小林2015）を受験してもらった。SPOT90の成績目安は「上級が81～90点」「中級が56～80点」となる⁴ため、中級と判定された協力者H～Lも、中級の上位であると考えられる⁵。

³ 一般的には、「客観的で硬い」文体は「くだけていない」場合が多く、「コーパス文体情報」でも、「とても／どちらかといえば客観的」で「とても／どちらかといえば硬い」文体の文章2370サンプルのうち、「とてもくだけている」のは『動物』を含む2サンプルだけであった。しかし、メイナード（2008）が「マルチジャンルという現象こそがごく頻繁に見られる言語のバリエーションの一種である」（p.14）と指摘するように、ひとつのディスコースの中に他のジャンルの特徴とされる表現が混用される例は少なくない。『動物』もそのような捉え方ができる可能性がある。

⁴ 筑波日本語テスト集TTBJのサイトに掲載がある。https://ttbj.cegloc.tsukuba.ac.jp/p1.html（2023年11月22日確認）

⁵ そのため、本稿のタイトルは両者をまとめて「上級」としている。

表4 調査協力者一覧

協力者	母語	日本語 学習期間	日本 滞在期間	SPOT レベル	SPOT 点数
A	中国語	8年7か月	3年7か月	上級	88
B	トルコ語	5年6か月	0年9か月	上級	86
C	中国語	8年8か月	3年5か月	上級	85
D	中国語	6年3か月	5年8か月	上級	84
E	中国語	6年8か月	2年8か月	上級	83
F	韓国語	5年6か月	1年2か月	上級	83
G	ベトナム語	5年0か月	0年9か月	上級	81
H	中国語	6年3か月	2年8か月	中級	80
I	中国語	6年6か月	4年0か月	中級	80
J	韓国語	6年10か月	0年8か月	中級	80
K	中国語	6年0か月	5年9か月	中級	77
L	中国語	8年7か月	5年2か月	中級	72

3.3 調査実施手順

調査は、①背景調査シートの記入、②5種の調査用テキストを用いた読解調査、③読解調査の回答に対するインタビュー、④SPOTの受験、という流れで行った。5種のテキストは、調査協力者によって読むテキストの順序を変え、順序の影響が偏って出ないようにした。調査はテストではないので、わからない語や表現があってもかまわないことや、趣味で読書をするときと同じような読み方をしてもらいたいことを調査協力者に伝えた。そのため、辞書を使いたい場合は使ってもよいと伝えたが、辞書を使った者はほとんどおらず、また、使った場合も文体理解に影響を及ぼす語ではなかった。また、SPOTの受験は自宅で都合の良い時間に行ってもらった。

読解調査の設問は表5の通りである。「専門的」「客観」「主観」「硬い」「軟らかい」「くだけている」「語りかける」という重要語については、調査前に各調査協力者に理解を確認した。しかし、調査の内容に影響が出ないようにするため、文体的特徴に対して具体例を用いて説明するなど、調査協力者に対して情報提供になるような説明は行わなかった。調査協力者には、設問の中にもわからない語があったら辞書で調べて理解してから調査を始めてほしい、というように伝えたにとどまる。

表5 読解調査の設問

◆内容がどれくらい理解できましたか。○をつけてください。 とてもよく理解できた ・ だいたい理解できた ・ あまり理解できなかった
◆この文章はどれに当てはまると思いますか。○をつけてください。 (1) とても専門的 ・ やや専門的 ・ 一般の人向き ・ 中学や高校生向き ・ 子供向き (2) とても客観的 ・ どちらかといえば客観的 ・ どちらかといえば主観的 ・ とても主観的 (3) とても硬い ・ どちらかといえば硬い ・ どちらかといえば軟らかい ・ とても軟らかい (4) とてもくだけている ・ どちらかといえばくだけている ・ くだけていない (5) とても語りかけられている感じがする ・ 少し語りかけられている感じがする ・ 語りかけられている感じがしない

◆ (3) ~ (5) について、どうしてそう思いましたか。(あとでインタビューでも聞きますから、線を引くのが難しい場合はひかなくてもいいです)

(3) について (硬い・軟らかい) そのように思った部分に _____ を引いてください。

(4) について (くだけている) そのように思った部分に ~~~~~ を引いてください。

(5) について (語りかけ) そのように思った部分に をつけてください。

「◆内容がどれくらい理解できましたか。」という設問は、日本語学習者である調査協力者の文章理解の程度を知ることを目的としたものである。また、「◆この文章はどれに当てはまると思われますか。」の各設問は、「コーパス文体情報」の指標の段階を問うものである。「◆(3) ~ (5) について、どうしてそう思いましたか。」は、そのような指標の判断に至った語や表現、文法項目などを把握することを目的とした設問である。柏野(2013)によると、(1)で問う専門度は対象読者に想定される読解レベル(難易度)、(2)で問う客観度はテキスト作成意図を示しており、文体情報を表すのは(3)の硬度、(4)のくだけ度、(5)の語りかけ性度である。そのため、文体情報の把握について知るために、(3) ~ (5)について詳細を問う。また、テキストは、BCCWJの図書館サブコーパスのサンプルとなる段階で、レイアウトやフォントの情報などが取り除かれている。現物の書籍であればイラストがついていたり、フォントやレイアウト等に工夫があったりすると思われるが、今回の調査は、日本語学習者が日本語の文章からどのような文体情報を取り出すかを知ることが目的としているため、レイアウト等の情報は調査に含めない状態で行った。

3.4 指標の計算手順

各調査協力者が「◆この文章はどれに当てはまると思われますか。○をつけてください。」という設問で回答した結果から、各指標の数値を得ることとした。指標を数値に表す場合は、各項目の一番左端を1点とし、右に進むにつれて1点加算されることとした。たとえば、客観度において「とても客観的」は1点、「どちらかといえば客観的」は2点、「どちらかといえば主観的」は3点、「とても主観的」は4点である。このように計算した各調査協力者の結果をもとに、各サンプルの各指標における平均値を算出した。

4. 調査結果の全体像

4.1 各指標の値

まず、調査から得られた各指標の値を表6に示す。

表6 読解調査と「コーパス文体情報」の指標の値

テキスト	指標	理解度	専門度	客観度	硬度	くだけ度	語りかけ性度	差の合計 (5)	差の合計 (3)
物理	調査結果	2.8	1.2	1.2	1.3	3.0	2.9		
	コーパス		1.0	1.0	1.0	3.0	3.0		
	差		0.2	0.2	0.3	0.0	0.1	0.8	0.4
約束	調査結果	1.0	3.8	3.3	3.2	2.3	1.5		
	コーパス		4.0	4.0	4.0	1.0	1.0		
	差		0.3	0.8	0.8	1.3	0.5	3.7	2.6
占い	調査結果	1.1	3.7	3.3	3.9	1.3	1.3		
	コーパス		5.0	4.0	4.0	1.0	1.0		
	差		1.3	0.7	0.1	0.3	0.3	2.7	0.7
男女	調査結果	1.5	3.1	3.8	3.2	1.5	1.8		
	コーパス		3.0	4.0	4.0	1.0	2.0		
	差		0.1	0.3	0.8	0.5	0.2	1.9	1.5
動物	調査結果	1.7	2.4	3.3	2.3	2.6	2.5		
	コーパス		3.0	2.0	2.0	1.0	3.0		
	差		0.6	1.3	0.3	1.6	0.5	4.3	2.4

※理解度：とてもよく理解できた1，あまり理解できなかった3

専門度：とても専門的1，子供向き5 客観度：とても客観的1，とても主観的4

硬度：とても硬い1，とても軟らかい4 くだけ度：とてもくだけている1，くだけていない3

語りかけ性度：とても語りかけられている感じがする1，語りかけられている感じがしない3

各調査協力者の選択した指標の平均を「指標」列の「調査結果」の行に、「コーパス文体情報」の指標の値を「指標」列の「コーパス」の行に示す。また「差」の行には、「コーパス文体情報」の指標値と本調査結果で得られた平均値の差を絶対値で示す⁶。「差の合計 (5)」の列には、5つの指標の差の合計を示す。「差の合計 (3)」の列には、文体情報に関連する硬度、くだけ度、語りかけ性度の3指標の差の合計を示す。

4.2 調査用テキストごとの分析

表6をもとに、調査用テキストごとに分析を行う。

5種の調査用テキストにおける5つの指標の差の合計を比較すると、「コーパス文体情報」の指標と最も調査結果が近いものは、差が0.8の『物理』である。『物理』は、理解度は最も低いが、文体情報は母語話者とほぼ同様に把握できている。調査の回答およびインタビューからは、「Dirac 場」や「Fermi 統計」などの専門用語がわからないため、内容を理解することはできないが、定理が示されていたり文献情報が掲載されたりしていることから、「論文っぽいもの」とであると理解したと述べる調査協力者が多く、「硬い」「くだけていない」「語りかけていない」と判断することが可能だったと見られる。大学や大学院に所属する調査協力者であったため、この種のテキストは読み慣れている可能性もある。

一方、差の合計が大きい読解サンプルは差が4.3の『動物』と3.7の『約束』である。『動物』

⁶それぞれの値は小数点第二位以下を四捨五入している。

は扱う内容が生物学的でやや専門性の高いものであるが、「ハテおかしそ」や「ソナバカナ」のようになくだけた表現がちりばめられており、「客観的で硬い」のに「くだけている」という面で文体を理解するのが難しいと思われるサンプルである。『動物』は客観度、くだけ度で差が大きく、差の合計も最も高い。調査協力者がこの種の文体の理解に苦勞したことがわかる。客観度については「(どちらかといえば)主観的だ」と判断した調査協力者が多く、複数の者が「書き手が他の考え方を批判して自分の考えを述べている」という点を理由として挙げた。先行研究を批判して新たな考え方を提示する手法は論文でもよく見られるものであるが、レポートや論文で見られる主張の仕方と異なる『動物』のような文体の場合、判断が難しくなるようだ。

また、『約束』は客観度、硬度、くだけ度で差が大きい。『約束』は口頭で行われたスピーチを文字に落としたような文章で、丁寧体で書かれている。音声言語の特徴と文字言語の特徴を併せ持ったような文体的特徴があり、この種の文体もやや把握が難しいことがわかる。

差が2.7の『占い』と1.9の『男女』は上記2タイプの間位置するが、両者の調査結果はやや異なっている。『占い』で差が大きいのは専門度と客観度である。「専門度」では「中高生向き」と答えた調査協力者が多く、インタビューで「日本の女子高生には占いが人気であるから」という趣旨の発言が複数あった。また、客観度では「客観的」と答えた調査協力者が多く、インタビューには「占いを科学的だと考えるかどうかは人による。占いを科学的だと考える人は、この文章は客観的だと思うだろう」という趣旨の発言が複数見られた。対象読者やテキストの作成意図などに関する部分は、それが読まれる社会文化的な理解とも関連することがわかる。また、『占い』には「いろ～んな」や「なりたあ～い」のような「～」を用いたくだけた表記・表現や「モテモテ」のようなカタカナ表記、オノマトペ、「ちゃお」のような縮約形が多用されており、これらから「軟らかい」「くだけている」と判定した調査協力者が多かった。これらの表現や表記は、レポートや論文に使わないことが意識されていると思われる、識別しやすい言語的要素であると考えられる。その結果、硬度、くだけ度に関しては「コーパス文体情報」の指標とほぼ同様の結果となっており、『占い』のようなきわめて軟らかくくだけたテキストは文体の把握が易しいと考えられる。

『男女』で差が大きいのは「硬度」で、文体情報に関わる指標である。『男女』は普通体のエッセイであるが、「凄みのこもった詰問調」や「憤懣やるかたなき形相」のようなやや文語的な表現も見られる。いわゆるレポートや論文の文体とは大きく異なっており、このような文体的特徴を持つテキストの理解にやや難しさがあることがわかる。

5. 文体把握の指標に関する分析

5.1 各調査協力者の文体3指標

本節では、文体把握に関する3指標（硬度、くだけ度、語りかけ性度）について、詳細を分析する。表6の3つの指標（硬度、くだけ度、語りかけ性度）の差の合計を見ると、『約束』が2.6、『動物』が2.4と高く、次いで『男女』が1.5である。この3つの調査用テキストの文体把握が比較的困難だったことがわかる。

この3つのテキストにおいて、各調査協力者の回答した指標値を表7に示す。「コ」は「コーパス文体情報」の指標値を示し、その値と2段階異なっている協力者を濃く塗りつぶし、1段階異なっている協力者を薄く塗りつぶした。くだけ度と語りかけ性度は3段階しかないため、くだけ度が2段階異なるとすれば、段階の両端である「とてもくだけている」と「くだけていない」の違いがある。くだけ度では2段階分の差が多く見られ、中でも『約束』と『動物』が多い。

表7 調査協力者が回答した指標値

テキスト	コ	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
硬度	約束	4	3	4	4	4	3	3	3	3	3	2	3
	男女	4	2	3	4	4	3	2	4	4	4	2	4
	動物	2	2	2	3	2	3	2	2	2	3	2	3
くだけ度	約束	1	3	3	2	2	3	2	3	2	1	2	3
	男女	1	3	2	1	1	1	3	1	1	1	2	1
	動物	1	3	3	2	2	2	3	3	3	3	2	3
語りかけ性度	約束	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	2	3
	男女	2	1	2	2	1	3	3	1	3	1	2	1
	動物	3	1	2	2	2	3	2	3	3	3	3	3

そこで、本節では、調査協力者が読解調査で具体的にどのような語や表現を手掛かりに3指標の判断をしたのかという点を中心に、この3つの調査用テキストの分析を行う⁷。文体把握に関する3指標に関しては、調査時の設問で調査協力者が着目した語や表現を尋ねており、判断した理由や、線を引くことが難しかった場合の感想などはインタビューで聞き取っている。ここでは、2名以上の調査協力者が着目した箇所を取り上げ、どのような語・表現と各指標を関連づけているかを分析する。

5.2 硬度

まず、硬度について分析する。表8は3つの調査用テキストにおいて、調査協力者のうち2名以上が「軟らかい」または「硬い」と判断した箇所である。()で示した数値はその箇所を挙げた人数を表し、数値が「+」で区切られている場合は、異なる2か所においてその表現が挙げられたことを示す。たとえば『約束』の「軟らかい」に「でしょう (3+6)」とあるのは、(1)のような2か所を3名と6名が選択したことを示す。また、下線を引いた箇所はインタビューで聞き取った内容であることを表す。表の「指標値」行には「コ」として「コーパス文体情報」の数値を、「本調査」として本調査の数値を示した。

- (1) スポーツを通じて学んだことは、必ずきみの中に宝物となって残ることでしょう。(3名)
負けて自分が傷つくのもイヤでしょう。(6名)

⁷3つの調査用テキストの調査に使用した全文は、本論文末に付録として掲載した。

表 8 硬度に関連する語彙・表現

	『約束』	『男女』	『動物』
指標値	コ：4 (とても軟らかい) 本調査：3.2	コ：4 (とても軟らかい) 本調査：3.2	コ：2 (どちらかといえば硬い) 本調査：2.2
軟らかい	大好き (2), からです (2), ね (2), のです (2), 思うんです (2), でしょう (3+6), イヤ (2), ではないと思います (3), なんですよ (4), よ (2), <u>話しことば・口語的</u> (3), 「 <u>です・ます</u> 」を使った文 (2)	つい先日の話だ (3), やつ (3), よし (2), では生年月日とお年をどうぞ (2), ガッチャーン (2)	多いだろうに (2), ソンナバカナ (2), ということが一つ (2)
硬い	※ 1名のみ「ですます」が硬いと発言	克明に (3), をば (2), 律儀 (3), 詰問調 (3), 憤懣 (3)	である (5), からである (2), 遺伝子 (2), 行動学 (5), 派生的 (2), 母性愛行動 (3), 利他行動 (3), 激賞 (2), さるべき (2), ということ (2+2)

石黒 (2015) は、ほぼ同じ内容を表す類義語が「硬さ／軟らかさ」に違いを見せる場合として ①上位語と下位語, ②多義性, ③抽象性, ④専門性, ⑤なじみ度, ⑥語種, ⑦意味的喚起力, ⑧表記, ⑨名詞性という 9つの観点から分析している。たとえば「果物」より「果実」のほうが専門性が高いため、「果実」のほうが硬い語である。そのような観点から表 8 を見ると、『動物』の「母性愛行動」や「利他行動」は専門性の高い語、つまり硬い語と言える。また、なじみ度の低い語のほうが硬い語と判断されるが、『男女』の「克明に」「憤懣」や『動物』の「激賞」などはこれにあたるだろう。このような判断は、石黒 (2015) で指摘されていることとおおむね共通しており、調査協力者は「硬い」という文体的特徴を持つ語・表現を抽出することはそれほど困難ではないことがわかる。また、「である」というコピュラ部分も多くの協力者が選択している。

調査協力者が「軟らかい」と判断した表現を見ると、待遇性の低い語である「やつ」や「バカ」を含む「ソンナバカナ」の他、『約束』では丁寧体を使用した文末部分や終助詞が多い。インタビューでも以下のような意見が見られた⁸。

- (2) I: この、「ですます」体が軟らかいです。
- (3) F: ちゃんと「ですます」を使っていたんですけど、何か先生の言い方みたいに「できるからです」って言ったり、「身についてくるのです」って言ったり、説明をする感じがして。

一方、1名ではあるが、『約束』の丁寧体使用を「硬い」と判断した調査協力者もいた。音声言語で丁寧体を用いる場合のイメージをそのまま文字言語に持ち込んでいるようにも感じられる。

- (4) L: 硬い。(中略)
- 調査者: それは何でそう思った。

⁸ 文頭の記号は調査協力者を示す。以下のインタビュー発話でも同様である。

L: これは「何々からです」とか、あと「かもしれません」。敬語? 「ですます」形を使っています。

また、『動物』の「ということ」も「硬／軟」の両方に見られる。軟らかいと感じた理由としては、「ということが一つ。」のように名詞止めされている部分を「後に何か省略されている」と感じ、それを「軟らかいと思う」という意見があった。硬い理由としては「～すること」のような注意書きを思い浮かべるためだという意見があった。

5.3 くだけ度

次に、くだけ度について分析する。

表9 くだけ度に関連する語彙・表現

	『約束』	『男女』	『動物』
指標値	コ: 1 (とてもくだけている) 本調査: 2.3	コ: 1 (とてもくだけている) 本調査: 1.5	コ: 1 (とてもくだけている) 本調査: 2.6
く だ け て い る	負けることは、悪いことじゃない! (2), たらと思います (2), かもしれません (2), よくわかります (3), でしょう (2), なんですよ (2), <u>文が完結しない・略されている (2), 普通の会話 (3)</u>	だ (2), やつ (8), よし (4), アルバイトギャル (3), ってんで (2), いけない (2), おタク (2), そりゃそうでしょ (3), そ, じゃ (2), <u>話しことば・口語的 (3)</u>	おかしいぞ (3), 評価する? (3), だろうに (2), 無視するのか (2), ていいのか (2), ソンナバカナ (3), ことが一つ (3), ではないか (3), ということ (3), <u>文が完結しない・略されている (2)</u>
く だ け て い な い	かもしれません (2), 「 <u>です・ます</u> 」を使った文 (3),		<u>内容が専門的・ちゃんとしている (3), 硬い文章 (2),</u>

「コーパス文体情報」では、3つのテキストはすべて「とてもくだけている」と判断されているが、実は3つのテキストは「くだけている」ことの言語的実現のされ方がやや異なっていると考えられる。

「くだけている」の反対の極には「あらたまっている」が位置すると思われるが、これらは待遇表現の中のひとつの選択軸であると考えられる。待遇表現は対人関係や場面差などに配慮して使い分ける表現であり、待遇的意味は「上扱い／下扱い」「遠ざけ／親しみ」「あらたまり／くだけ」「丁寧／ぞんざい」などの尺度で計られる (日本語記述文法研究会 (編) 2009: 227-231)。また、石黒 (2015) は、あらたまった表現とくだけた表現の対立として、①素材敬語を用いるか否か、②対者敬語を用いるか否か、③授受表現を用いるか否か、④疑問表現を用いるか否か、⑤断定回避表現を用いるか否か、⑥語りかけ表現を避けるか否か、⑦公的な人称表現を用いるか、私的な人称表現を用いるか、⑧標準的な語形を用いるか、俗語的な語形を用いるか、の8つを挙げ、「あらたまった表現は間接的で婉曲的であるのにたいし、くだけた表現は直接的で聴き手に働きかける」 (石黒 2015: 16) と述べている。

そのような観点から見ると、『約束』は対者敬語である丁寧体が用いられており、あらたまっていると考えられるが、「よ」「ね」などの語りかけ表現を避けずに使用する点からは、くだけていると言える。また「よくわかります。」のような聞き手・読み手に共感する表現も見られ、待遇の意味の尺度で言えば、「あらたまり」と「親しみ」が同時に出現していると捉えられる。一方、『男女』は「やつ」「いってやれ」のような、どちらかといえば「下扱い」や「ぞんざい」の尺度が強そうだ。『動物』は「ハテおかしいぞ」「ソナバカナ」のような書き手の独白のような表現が見られることによってくだけ度が上がっていると考えられる。このように「くだけている」内実は、3つのテキストでやや異なっていると考えられる。

このような異なりの影響は調査協力者の回答にも表れていると考えられる。『約束』においては、丁寧体文末を「くだけている」と回答する者と「くだけていない」と回答する者に分かれている。丁寧体文末を「くだけている」と回答した者は、「たらしめます」のように、「たらし」と「と思ひます」の間に何かあるはずなのにそれが省略されていることや、よく耳にする普通の会話と似ていることを理由に挙げた。よく耳にする普通の会話とは、話者間の距離の近い日常的な会話であると考えられる。一方で、丁寧体文末をくだけていないと捉える者の中には、『約束』の語りかけ表現に着目し、これをスピーチだと捉え、以下のように述べた者もいる。このような文体把握を間違っているととらえにくい。

(5) A: ちゃんとしたスピーチなので、くだけていません。

調査者: ちゃんとしたスピーチ?

A: はい。あと「ですます」系もちゃんと使ってますので。

調査者: 「ですます」があるから。

A: くだけているというのは、何か、ら抜き言葉とか、若者言葉、流行語とかそのほうがくだけていると思います。(中略) 文章の雰囲気は優しい、軟らかい。でも、言葉はちゃんとした言葉です。

このような、聞き手・読み手との心的距離が近い表現を盛り込んだ、丁寧体基調のテキストのくだけ度の判断は、複数の観点が交差しているという点において、日本語学習者にとって大変難しいと考えられる。

また、『男女』と『動物』については、「やつ」「ソナバカナ」のような俗語的な語形や「つてんで」「そりゃ」のような縮約形が「くだけている」と判断されており、その点においては判断は正しい。俗語や縮約形は、レポートや論文でも産出が不適切な語・表現であるため、そのような練習を繰り返している学習者であれば識別が比較的容易であることが想像できる。また、『動物』では、「どう評価する?」「ことが一つ。」「ということ。」なども選択されており、この理由として、「文が完結していない」「省略されている気がする」ことを挙げている。「くだけている」ことの根拠として、待遇的な観点だけでなく、文として整っているか、不足がないかという点を意識している学習者もいることがうかがえる。一方で、『動物』は内容が専門的であることや、硬い文章であることから「くだけていない」と判断する協力者もいた。硬度とくだけ度の区別が

難しいことがうかがえる。

- (6) E：くだけてない言い方だったら（筆者注「どう評価する？」を）「どう評価しますか」って、ただしく言うと思って。
- (7) H：ええ、そうですね。私の場合は、硬い文章だとくだけて感じられないというのがすごくあると思います。

5.4 語りかけ性度

次に、語りかけ性度について分析する。

表 10 語りかけ性度に関連する語彙・表現

	『約束』	『男女』	『動物』
指標値	コ：1（とても語りかけ性がある） 本調査：1.5	コ：2（どちらかといえば語りかけ性がある） 本調査：1.5	コ：3（特に語りかけ性はない） 本調査：1.5
語りかけている	ね (2), みんな (5), きみ (2), でしょう (4+4), たしかにあるかもしれません (3), よくわかります (4), よ (6)	つい先日の話だ (4), あと (2), (恐れをなしたの) か (2), (尋ねるの) か (2)	? (3), ソンナバカナ (2), 多いだろうに。(2), <u>文末の省略</u> (2), <u>自分の態度・考えを話す</u> (2)
いない		<u>独り言みたい</u> (2)	<u>インタビューに答えていて私に話していない</u> (2)

3つの調査用テキストは、「コーパス文体情報」の語りかけ性度は1～3までと、それぞれ異なる段階にある。最も語りかけ性が高い『約束』は、スピーチを文字化したような文体であるため、「みんな」「きみ」などの呼びかけや、「ね」「よ」などの終助詞の使用、「多いだろうに。」の言いさしなど、聞き手・読み手を意識した表現が見られ、調査協力者もそれを適切に選択している。

一方、本調査の結果では、『男女』『動物』についても、『約束』と同程度の語りかけ性と判断されている。野田（2012）や野田（2014）は、エッセイやブログに見られる読み手を意識した表現として、終助詞の使用、言いさしや倒置、名詞止めの使用、「疑問」「勧誘」「行為要求」「感嘆」などの表現類型の使用、疑似独話の使用などについて詳細に分析している。『男女』はエッセイであるが、野田（2012, 2014）で指摘されているような読み手を意識した表現は少なく、「コーパス文体情報」では「どちらかといえば語りかけ性がある」と判断されている。本調査においては、言語的な表現に着目して語りかけ性を判断しているというよりは、硬度において「軟らかい」と判断したり、くだけ度において「くだけている」と判断した箇所と同様の箇所が多い。また、『動物』は「コーパス文体情報」では「特に語りかけ性はない」だが、本調査では「自分の態度・考えを話す」という点から語りかけ性があると判断している調査協力者もあり、言語的な特徴から語りかけ性の有無を判断することは難しいことがわかる。

6. 考察

6.1 文末の文体

本節では、調査協力者が「です・ます」の丁寧体基調をどのようにとらえたかという観点から、総合的に考察する。調査協力者を全体としてみると、特に『約束』において丁寧体文末を「軟らかい」「硬い」「くだけている」「くだけていない」「語りかけ性がある」のすべてに関連があると捉えていた。このことは何を意味するのか。

まずは、文字言語における丁寧体の使用を、滝浦（2014）の論を用いて考えたい。滝浦（2014）は、宮地他（2007）が提示した「共在マーカー」と「共在性」という概念を用いて、様々なケースにおける発話効果のメカニズムを具体的に提示している。「共在マーカー」とは「です・ます」や終助詞をはじめ聞き手の存在を要求する言語形式を指す。「共在性」とは個別・具体的で特定の聞き手が存在するか否かに関する現実世界における尺度である。この2つの観点から「共在の場における共在マーカーの使用」「非共在の場における共在マーカーの不使用」というデフォルトの状態と、「非共在の場における共在マーカーの使用（＝疑似共在）」と「共在の場における共在マーカーの不使用（＝疑似非共在）」という非デフォルトの状態があるとしている。滝浦（2014）は、場面を言語的特徴としての待遇性の有無（[+/-待遇性]）で素性指定し、さらに、敬語要素である「です・ます」の使用がもたらす意味機能を心的距離が遠い[+遠]、「よ・ね」のような終助詞の使用を心的距離が近い[+近]と指定し、それらの組み合わせを以下のように公式化している（滝浦 2014: 84）⁹。

- ・デフォルト 1a（話し言葉における「です・ます」使用）
 - 場面条件 <+受け手>
 - 「です・ます」使用 [+待遇性, +遠]
 - 発話効果 [+遠]
 - ＝共在かつ遠隔化（現前する受け手に対する丁寧な待遇）
- ・デフォルト 1b（通常の「よ・ね」使用）
 - 場面条件 <+受け手>
 - 「です・ます」使用 [+待遇性, +近]
 - 発話効果 [+近]
 - ＝共在かつ近接化（現前する受け手に対する近しい待遇）
- ・デフォルト 2（新聞・論文などの書き言葉）
 - 場面条件 <-受け手>
 - 「です・ます」使用 [-待遇性, +遠]
 - ＝非共在（共同的な関係の非在）
- ・疑似共在 1（非共在関係における「です・ます」使用）

⁹ 本稿では基本的に話しことば・書きことばという語で文体の説明をすることは避けているが、ここでは滝浦（2014）の表記に従う。

場面条件 <-受け手>

「です・ます」使用 [+待遇性, +遠]

→発話効果 [+待遇性, +遠]

= 共在化かつ遠隔化 (共同的な関係に引き込み距離は保つ)

・疑似共在2 (非共在関係における「よ・ね」使用)

場面条件 <-受け手>

「です・ます」使用 [+待遇性, +近]

→発話効果 [+待遇性, +近]

= 共在化かつ近接化 (共同的な関係に引き込み距離を詰める)

(滝浦 2014: 84)

つまり、文字言語は基本的には目の前に受け手がいない非共在であるため、「です・ます」という丁寧体の不使用がデフォルトであるが、そこで「です・ます」を使用すると[+待遇性]という語用論的効果を発揮し、[+待遇性]という点から、文章における丁寧体使用は語りかけ性を帯び(野田 2012)、[+遠]という点から「くだけていない」尺度を高める。

また、滝浦(2014)は文字言語で「です・ます」と「よ・ね」がともに用いられる場合は[+遠, +近]の両方がマークされ、語用論的効果としては、丁寧な待遇をベースとしながら近い距離感が加わるような遠近両用であると述べている。これは『約束』にあてはまり、「ですよ」等の文末は「くだけている」と「くだけていない」が共存する。ここから、各調査協力者が『約束』における丁寧体文末がもつ複数の側面のうちのある一側面を捉え、指標と関連づけていたことがわかる。

媒体と文体を総合して考えると、「です・ます」の使用や不使用という現象が、媒体によって異なる効果を発揮することを意識する必要があると言える。その様子を整理したものが表 11 である。日本語学習者である調査協力者はこのような整理の仕方を意識的には行っていない可能性がある。

表 11 媒体ごとにもみた文末文体が表す効果

	丁寧体使用	丁寧体不使用	終助詞使用
音声	受け手に対する丁寧さ	受け手に対する非丁寧さ	受け手に対する近しさ(=くだけ)
文字	疑似的な受け手に対する丁寧さ／語りかけ性	受け手を想定しない(デフォルト)	疑似的な受け手に対する近しさ(=くだけ)／語りかけ性

6.2 くだけ度の細分化

5.3 節でも述べたが、「コーパス文体情報」におけるくだけ度は「上扱い／下扱い」「遠ざけ／親しみ」「あらたまり／くだけ」「丁寧／ぞんざい」のような複数の待遇の意味と関連して、「下扱い」「親しみ」「くだけ」「ぞんざい」のような類似した概念を包括している可能性があった。特に、終助詞の使用が引き起こす「親しみ」は、「やつ」のような下扱いの表現や「～というので」の縮約形「ってんで」のようなぞんざいな表現とは、区別されるべきではないと思われる。学習者である調査協力者は、それぞれの側面を捉えることはできていたため、くだけ度の内実を

理解できれば、さらに文体把握が向上すると思われる。

また、調査協力者の一部は、文章であるのに文が完結していないこと、何かが略されていることに反応しており、それを「くだけている」「語りかけ性がある」ことと結びつけていた。このことは、音声言語が持つ即時性・即興性、つまり、文が正しく発話できず倒置が起きたり、言ひさしになったりという現象が文字言語において発生していることに着目して、それを異質だと捉えていたと考えることができる。そのことは文体指標の理解としてはおおむね間違っておらず、このようなことを整理して示すことができれば、日本語学習者の文体のよりよい把握につながると思われる。

7. まとめ

リサーチクエスチョンに答える形で、本稿のまとめを行う。

「リサーチクエスチョン1：日本語学習者にとって文体把握が易しいテキスト、難しいテキストの違いは何か。」については、以下のように考えられる。

- ・レポートや論文の特徴を持ったテキストは、最も文体把握が容易である。
- ・オノマトペや縮約形、ぞんざいな表現など、レポートや論文では使用しない表現が多用されたテキストは、言語的にそれらの要素を識別しやすく、文体把握が容易である。
- ・エッセイ、スピーチを文字化したような丁寧体文末テキストの文体把握が難しい。また、「専門的で客観的で硬い」のに「くだけている」ような通常予想されやすい文体と異なるテキストの文体把握が難しい。

次に、「リサーチクエスチョン2：日本語学習者にとって把握が難しい文体指標は何か。それはどうしてか。」については、以下のように考えられる。

- ・硬度とくだけ度が難しい。くだけ度に関しては、包括するさまざまな待遇の意味を区別することが難しい。
- ・3つの文体指標全てに関わる難しさとして、音声言語と文字言語における丁寧体使用と丁寧体不使用の効果の違いが関連している。

これらを総合的に判断すると、話しことば／書きことばという2つの用語ではなく、文体的特徴をさらに詳しく説明する要素として、硬度、くだけ度、語りかけ性度という3指標は、上級日本語学習者に向けた記述の観点として機能し得ると考えられる。しかし、そのためには、くだけ度の細分化と、媒体と文末文体との関係の整理が不可欠であると言える。

参考文献

- 安藤淑子 (2002) 「上級レベルの作文指導における接続詞の扱いについて一文系論文に用いられる接続詞語彙調査を通して」『日本語教育』115: 81-89.
- 浅原正幸・加藤祥 (2015) 「文体指標を特徴づける係り受け部分木の抽出」『第8回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』: 171-178.

- 浅原正幸・加藤祥・立花幸子・柏野和佳子 (2014) 「文体指標と語彙の対応分析」『第6回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』:11-20.
- 浅原正幸・加藤祥・立花幸子・柏野和佳子 (2015) 「文体指標と語彙系列の対応分析」『第7回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』:7-16.
- 馬場俊臣 (2018) 「『BCCWJ 図書館サブコーパスの文体情報』を利用した語の文体差研究の可能性」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』3: 241-256.
- 井上次夫 (2009) 「論説文における語の文体の適切性について」『日本語教育』141: 57-67.
- 石黒圭 (2015) 「書き言葉・話し言葉と「硬さ／軟らかさ」一文脈依存性をめぐって」『日本語学』34(1): 14-24.
- 石黒圭・阿保きみ枝・佐川祥予・中村紗弥子・劉洋 (2009) 「接続表現のジャンル別出現頻度について」『一橋大学留学生センター紀要』12: 73-85.
- 石黒圭・橋本行洋 (編) (2014) 『話し言葉と書き言葉の接点』東京: ひつじ書房.
- 柏野和佳子 (2013) 「書籍サンプルの文体を分類する」『国語研プロジェクトレビュー』4(1): 43-53.
- 柏野和佳子 (2015) 『BCCWJ 図書館サブコーパスの文体情報』(2015年公開第1版) <http://doi.org/10.15084/00003109>
- 柏野和佳子・中村壮範 (2014) 「BCCWJ 図書館サブコーパスの文体情報検索ツールによるテキスト分析」『第5回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』:171-180.
- 小林典子 (2015) 「SPOT」李在鎬 (編) 『日本語教育のためのテストガイドブック』110-126. 東京: くろしお出版.
- 小西円 (2023) 「上級日本語学習者の文体把握に関するケーススタディー「BCCWJ 図書館サブコーパス文体情報」を用いた読解調査」『言語資源ワークショップ発表論文集』1: 233-242.
- 李在鎬 (2016) 「日本語教育のための文章難易度研究」『早稲田日本語教育学』21: 1-16.
- 前坊香菜子 (2007) 「辞書における「語の文体」に関する情報一位相注記の調査から」『日本語教育方法研究会誌』14(1): 78-79.
- 前坊香菜子 (2009) 「語の文体に関して学習者はどのように認識しているか—類義語の副詞に対する調査から—」『日本語教育方法研究会誌』16(1): 14-15.
- メイナード, 泉子・K (2008) 『マルチジャンル談話論 間ジャンル性と意味の創造』東京: くろしお出版.
- 宮地朝子・北村雅則・加藤淳・石川美紀子・加藤良徳・東弘子 (2007) 「共存性からみた「です・ます」の諸機能」『自然言語処理』14(3): 17-38.
- 村岡貴子 (2001) 「農学系日本語論文における「結果および考察」の文体—文末表現と文型の分析から—」『日本語教育』108: 89-98.
- 村岡貴子・影広陽子・柳智博 (1997) 「農学系8学術雑誌における日本語論文の語彙調査—農学系日本語論文の読解および執筆のための日本語語彙指導を目指して—」『日本語教育』95: 61-72.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2009) 『現代日本語文法7』東京: くろしお出版.
- 野田春美 (2012) 「エッセイ末における読み手を意識した表現」『人文学部紀要』32: 39-54.
- 野田春美 (2014) 「疑似独話と読み手意識」石黒圭・橋本行洋 (編) (2014), 57-74.
- 定延利之 (2005) 「話しことばと書きことば (音声編)」上野智子・定延利之・佐藤和之・野田春美 (編) 『ケーススタディ日本語のパラエティ』102-107. 東京: おうふう.
- 高野愛子 (2011) 「レポート・論文の文体に関する学習者の意識—許容範囲を探るために—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』37: 77-87.
- 高野愛子・上村圭介 (2017) 「レジスター別出現頻度に基づく順接続詞の文体差の評価—現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) の用例分析から—」『語学教育研究論叢』37: 273-293.
- 滝浦真人 (2014) 「話し言葉と書き言葉の語用論 日本語の場合」石黒圭・橋本行洋 (編) (2014), 75-92.

付録：調査使用文 (全文)

『約束』

4 「負ける」ことの大切さを知ろう

—勝つことも負けることも、強くなるための大切な宝物だ—

負けることは、悪いことじゃない！

僕はスポーツが大好きです。自分の頭、身体、そして心、持てる力のすべてをありったけぶつけることができるからです。

結果がはっきりと出るのもいいですね。記録や勝ち負けという形で、そのときの能力やそれまで積み重ねてきた毎日の努力が、具体的に表れてきます。「目標を立てる」→「努力する」→「(残念な)結果が出る」→「目標を立て直す」→「また努力する」→「(いい)結果が出る!」という流れが、スポーツをやっていると自然に身についてくるのです。

これは、将来スポーツと関係のない仕事に就いたとしても役立つことだと思うんです。だから、みんなにも、何かひとつはスポーツを経験してもらえたら、と思います。スポーツを通じて学んだことは、必ずきみの中に宝物となって残ることでしょう。

「人に勝ったり負けたりするのって、イヤだな。自分を人と比べたくない」

そんな考えも、たしかにあるかもしれません。よくわかります。

負けて自分が傷つくのもイヤでしょう。勝って相手を傷つけてしまうのも決して気分がいいものではないと思います。

でもそれは、大きな勘違いかもしれません。スポーツでは、負けることも大切なんですよ。

『男女』

つい先日の話だ。

最近流行りの通信販売。例の新聞の日曜版の裏面などに、克明にズラリと商品が写真などで広告してあるやつ。あれをば何となく眺めているうちに、どうしても欲しくなった商品があった。

よし、こいつひとつについてやれとばかりすぐ電話にとびついた。

「ハイ、こちら一です」と出たのは、耳ざわりだけでわかるアルバイトギャルの声。

「商品番号をおっしゃって下さい」といわれて答える。

さらに「御住所と御名前、電話番号を郵便番号からどうぞ」ってんで、こいつにも律儀に返事をする。が、その次がいけない。

「では生年月日とお年をどうぞ」

「え!」 暫く電話口で絶句したあと、

「ちょいと、あのね」 やや凄みの籠った詰問調で、

「ものを買うのにいちいち年をいわなきゃいけないの、おタクはッ」

こっちの勢いに恐れをなしたのか、

「いえ、では結構です…」

「そりゃそうですよ」

「はあ」

「それでいつ届くの」

「だいたい二週間くらいです」

「そ、じゃ」

ガッちゃんということにあいなかったのであるが、通信販売が何故いちいち買い手の年を尋ねるのか、私は憤懣やるかたなき形相で周りにあたりちらした。

『動物』

5 動物たちの愛は血縁淘汰では解けない 血縁者でない仲間を多く助けたことこそ大切

私が「警戒音を発して仲間を逃がす利他行動」を遺伝子レベルで考え、その犠牲になった個体の遺伝子が生きのこった兄弟の中に伝わるからいいのだという「血縁淘汰」の考え方にハテおかしいぞと思ったのは、すぐにいくつかの疑いが生まれたからである。

だいいち、犠牲者の兄弟はそれで助かって、大へん結構だったが、多くの血縁者でない仲間たちはどう評価する?—彼らの方がはるかに多く助かっていることも多いだろうに。それは犠牲者の遺伝子とかかわりがないから、「派生的なもの」で、行動学的には無視するのか、考えなくていいのか、ソナバカナ、ということが一つ。

私にとっては、血縁者でない仲間を多く助けたからこそ、すぐれた利他行動というべきで、血縁者を助けたことは、(母性愛行動がいくら利他的でも、当然の行動で、とくに激賞さるべきではない。ということと同じく)「他人」を助けたより低く評価さるべきだと思ったから。

次に、兄弟がいなかったら何とする。犠牲者の利他行動は、「他人」だけを利したことになり、彼の大事な遺伝子はそれっきり絶えてしまうのではないか、ということ。

How Do Advanced Learners of Japanese Comprehend Text Styles?

KONISHI Madoka

Tokyo Gakugei University / Project Collaborator, NINJAL

Abstract

This is a case study that investigated the perception of text styles by advanced learners of Japanese. The investigation was conducted using five indicators from the “Writing Style Annotation for the Library Subcorpus of the BCCWJ” (Kashino 2015). The findings showed that texts written in a style similar to academic articles and reports were easier to comprehend, while texts written in genres such as essays and transcribed speeches were more difficult to comprehend. In terms of writing style indicators, we observed only a partial understanding of various aspects of politeness, particularly with regard to the indicators of formality. To properly understand the style of a text, it is necessary to further classify the indicators that determine whether or not a sentence is informal. It is also necessary to summarize and demonstrate to learners of Japanese the effects of using or not using polite forms in spoken and written language. This would enable a more detailed description of writing styles, rather than simply describing them in terms of “spoken language” and “written language.”

Keywords: Japanese education, Japanese learner, text styles, spoken language, written language